

千葉市新基本計画審議会地方創生部会 第1回千葉市まち・ひと・しごと創生会議 議事録

1 日 時：平成27年7月27日（月） 18：00～20：00

2 場 所：千葉中央コミュニティセンター 8階「海鷗」

3 参 加 者：《委員》12名

栗飯原希委員、大庭正和委員、北村彰英委員、坂戸誠一委員、下村武史委員、
田村哲子委員、辻徳次郎委員、遠山宏幸委員、村尾憲治委員、村館靖之委員、
矢田玲湖委員、吉開真一郎委員

《市出席》1名

熊谷市長

《事務局》6名

川上総合政策局長、稲生総合政策部長、藤代政策企画課長、
柿沼政策企画課長補佐、藤牧主査、加来主査、中村主任主事、積田主任技師

4 議 題

- (1) 会長及び副会長の選任について
- (2) 審議会の公開及び議事録の取り扱いについて
- (3) 千葉市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン及び総合戦略の策定について（諮問）
- (4) 部会の設置及び部会委員の選任について
- (5) 千葉市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略骨子案について
- (6) その他

5 議事の概要

- (1) 会長及び副会長の選任について
委員の互選により、会長に北村彰英委員、副会長に坂戸誠一委員が選任された。
- (2) 審議会の公開及び議事録の取り扱いについて
会議の公開及び議事録の公表について、事務局から説明し、了承された。
- (3) 千葉市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン及び総合戦略の策定について（諮問）
諮問理由について事務局から説明を行った。
- (4) 部会の設置及び部会委員の選任について
・部会の設置について了承された。
・委員の互選により、部会長に北村彰英委員、副部会長に坂戸誠一委員が選任された。
- (5) 千葉市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略骨子案について
千葉市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略骨子案について、事務局から説明し、委員が意見交換した。

(6) その他

審議会の開催スケジュールについて、事務局から説明した。

6 会議経過

～ここから、会議逐語録～

1 開会

【藤代政策企画課長】

ただいまより、第1回千葉市新基本計画審議会を開催いたします。

私は本日の進行役を務めさせていただきます政策企画課長の藤代でございます。どうぞよろしくをお願いいたします。開会にあたりまして、熊谷市長よりご挨拶を申し上げます。

2 市長挨拶

【熊谷市長】

皆様こんにちは。まち・ひと・しごと創生会議の委員をお引き受けいただき、誠にありがとうございます。本来であれば、一人ひとりに委嘱状をお渡ししたかったのですが、時間の関係上、事前にお手元にお渡しさせていただく形となりましたことをご了承いただければと思っています。

この「地方創生」の話は、もともとは「増田レポート」と言われる消滅可能性都市の話であったり、地域の特徴を活かした地方の活性化が必要だという議論があったりという中で、国が「地方創生」という旗印のもとで進めて来ている訳ですが。千葉市の場合、平成23年度に策定した10年間の新基本計画で、すでに千葉市の人口減少を予測し、同じような趣旨で計画を作っていました。当時私は色々な場所に行くと、「人口減少の話なんか聞きたくない、100万人都市にいつなるのか話してほしい」ということをよく言われたものですが、今ではそのような話はなかなか聞こえなくなったのかなという風には思います。もちろん、私たちとしても人口が減らないよう、仕事を創生していったりする形で、活力を維持し続けることが最も大事な訳ですが、一方で、何もしなければ人口減少社会を迎えるという現実をしっかりと直視した上で、必要な施策を今から計画的に打っていく必要があると思っています。

私が2年前に、2期目の市長に当選させていただいた時に、議会の所信表明で申し上げたことがここで一つ関係してきます。私はその中で、千葉市は東京都市圏として扱われているが、東京から半分独立した、独自の文化圏、経済圏を作っていく必要があるという話をしました。人口が爆発的に増えていた頃は、千葉市も東京都市圏に入り、ベッドタウンとしての役割を果たしましたが、今は東京回帰が進んでおり、東京からの人の流れは船橋市や市川市までに留まっていると思います。

千葉市は昼夜間人口が97%以上で、横浜市や川崎市、さいたま市と比べて、極めて高い数値を維持しています。また、東京に勤めている方々も僅か22%ということで、いわゆる「千葉都民」というようなイメージで東京都市圏の一部という認識をこれまではされてきたと思いますが、データ等からみても、やはり私たちのまちというのは、東京圏の影響を受けつつも、独自の経済圏が確立されていると考えて良いと思います。ですので我々が考えなければいけないのは、地方

の都市と同様に、我々自身のアイデンティティをしっかりと確立した上で、「まち」と「ひと」と「しごと」について、独自のカラーを考えて取り組む必要がありますし、それができる都市であると思います。

首都圏の中における特殊な立ち位置を理解し、千葉市の良さを活かしたまちづくりを進めるために、皆様からそれぞれのバックグラウンドに基づいた幅広いご意見をいただき、市の計画に反映させて参りたいと考えています。分野が全てにわたっていますので、議論をまとめていくのは大変かと思いますが、非常に良いきっかけになると思っています。どうぞ忌憚のない意見を頂戴しながら、千葉市の未来を切り開いて参りたいと思っております。

結びになりますが、改めましてお忙しい中委員をお引き受けいただいた御礼と、これからの議論をお願い申し上げまして、私からの挨拶に代えさせていただきます。これからどうぞよろしくお願いいたします。

【藤代政策企画課長】

市長におかれましては次の公務がございます。ここで退席させていただきますことをお許しください。

(熊谷市長退席。)

3 委員委嘱

【藤代政策企画課長】

報道機関の方の写真撮影はここで一旦終了とさせていただきますので、ご了承ください。

それでは引き続きまして、事務局より委員の皆様をご紹介させていただきます。会議資料の1ページにあります委員名簿の順にご紹介させていただきます。

(委員名簿順に、氏名を紹介した。)

続きまして、事務局の職員をご紹介させていただきます。

(氏名及び職名を紹介した。)

次に、会議の成立について報告させていただきます。本日の会議につきましては、会議資料2ページの新基本計画審議会設置条例第5条第2項の規定により、会議成立には委員の半数以上の出席が必要でございますが、本日は全ての委員にご出席いただいておりますので、会議が成立しておりますことをご報告申し上げます。

4 議題

(1) 会長及び副会長の選任について

【藤代政策企画課長】

それでは、お手許の次第に従いまして、会議を進めさせていただきます。これより議題に入らせていただきます。

会長及び副会長の選任にあたり、会長が決まるまでの間、総合政策局長の川上が進行役を務めさせていただきますと存じますが、よろしいでしょうか。

【委員一同】

(異議なし)

【川上総合政策局長】

総合政策局長の川上でございます。会長が決まるまでの間、進行役を務めさせていただきます。よろしくお願いいいたします。

それでは、会長の選任につきまして、審議会設置条例第4条により、委員の互選となっておりますが、いかが取り計らいましょうか。

【遠山委員】

千葉大学名誉教授の北村委員を推薦したいと思います。千葉市と深い関わりを持ち、また、千葉市産業振興財団の理事長を務め、地方創生に必要なものづくりに関して深い知見をお持ちですので、北村委員が適任と考えます。

【川上総合政策局長】

ただいま遠山委員より、北村委員とのご提案がございましたが、いかがでございましょうか。

【委員一同】

(拍手)

【川上総合政策局長】

ありがとうございます。それでは、北村委員に会長をお願いいたします。

それでは、会長席への移動をお願いいたします。

【藤代政策企画課長】

ここで、北村会長より、ご挨拶を頂戴したいと存じます。

【北村会長】

北村です。皆様のご指名により、会長という大変な重責を担うこととなり、非常に緊張しておりますが、どうぞよろしくお願いいいたします。本審議会の役割は、千葉市の地方創生のための人口ビジョン、総合戦略の策定にあたって、12名の委員が、それぞれの専門分野や経験に基づいた意見を、審議をとおして反映させていくことだと思っております。

例えば私の専門は、学術、特に工学という分野ですが、ものづくりをどのように産業に活かしていくかを考えていきたいと思っております。是非、皆様の叡智を集約して、千葉市がより良い方向に進めるようにまとめていきたいと思っておりますので、是非ご協力の程よろしくお願いいいたします。

【藤代政策企画課長】

ありがとうございました。以降の議事進行は北村会長にお願いします。

【北村会長】

それでは、引き続き議事を進めさせていただきます。

副会長の選任について、こちらも委員の互選となっておりますが、いかが取り計らいましょうか。

【田村委員】

坂戸委員を推薦いたします。企業経営の第一線でご活躍され、千葉県中小企業団体中央会の会長を長きに渡って務めておられましたので、豊かな経験を総合戦略の策定に活かしていただけると思います。

【北村会長】

ただいま、坂戸委員とのご提案がございましたが、いかがでしょうか。

【委員一同】

(拍手)

【北村会長】

ありがとうございます。坂戸委員に副会長をお願いしたいと思います。それでは、副会長席へ移動をお願いいたします。ここで、坂戸副会長より、ご挨拶をお願いいたします。

【坂戸副会長】

花見川区の鉄工団地で長く商売をやっております、坂戸工作所という会社の社長をやっております。坂戸でございます。副会長という重責を担うととなり大変恐縮、緊張しております。田村委員の紹介にありまして、先月まで千葉県中小企業団体中央会の会長を務めておりましたため、千葉市の地方創生には、中小企業の振興が不可欠と考えています。しかしもちろん、これのみにとどまらず、千葉市の活性化を図るためには、様々な側面からの考え方が必要だと考えております。

先ほども、一言話しても良いかとおっしゃられた委員さんがおり(会議経過3「委員委嘱」で、委員全員の氏名を紹介した際、そのような一幕があった)、気合の入った皆様とご一緒だなと感じました。私も皆様のお役に立てるよう、会長を補佐して頑張っていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

(2) 審議会の公開及び議事録の取り扱いについて

【北村会長】

続きまして、議題の2「審議会の公開及び議事録の取り扱いについて」でございますが、事務局から説明をお願いします。

【稲生総合政策部長】

会議の公開及び議事録の取り扱いにつきまして、ご説明させていただきます。千葉市情報公開条例第25条の規定では、附属機関の会議は原則公開となっております。本日の会議におきましては、非公開事項に関する審議はないものと考えており、会議は公開、また、本日の議事録につきましても、後日公表することとなりますので、ご了承いただきたいと存じます。

【北村会長】

ただいま事務局から説明がありましたが、本日の会議は公開、議事録は公表とのことでございます。ご異議なければ、そのようにしたいと考えますので、よろしくお願いいたします。

【委員一同】

(異議なし)

(3) 千葉市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン及び総合戦略の策定について (諮問)

【北村会長】

続きまして、議題の3「千葉市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン及び総合戦略の策定について (諮問)」につきまして、事務局から説明をお願いします。

【稲生総合政策部長】

お手元に諮問案を置かせていただいております。先ほど会長が決まりましたので、後ほど委員の皆様には、会長名を入れ、写しを配布させていただきます。諮問の概要について申し上げます。まず、表面になりますが、千葉市新基本計画審議会設置条例第2条の規定に基づき、貴会に諮問をするものです。

裏面、諮問の理由に関しましては、恐れ入りますが、一部省略して説明させていただきます。急速に進行している人口減少は、少子高齢化を伴いながら、社会経済全体を衰退させる深刻な課題となっています。国は「まち・ひと・しごと創生法」を施行し、また「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」及び「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を閣議決定しました。その中には、国・地方が総力を挙げて取り組むべきことが明確に示されています。

千葉市におきましては、冒頭市長が申しましたように、平成23年6月に「千葉市新基本計画」を策定し、その際に将来の人口減少や少子超高齢化を見据え、具体的な取り組みを進めてきたところですので。そこに示される方向性を、より「地方創生」の観点に立ち、積極的に進めていくべく、人口の将来展望を提示する「千葉市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」及び、今後5か年の目標や施策の基本的方向、具体的な施策をまとめた「千葉市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定することとしました。

まさに都市を挙げての取り組みが重要であり、「産官学金労言」及び市民参画委員により構成される貴会において、人口ビジョン及び戦略の方向性やその具体についてご審議いただきたく、諮問をするものです。

（４）部会の設置及び部会委員の選任について

【北村会長】

ただいまの諮問に対応するために、議題の4「部会の設置及び部会委員の選任について」を議論させていただきます。事務局より説明をお願いします。

【稲生総合政策部長】

お手元の会議資料の2ページをお開きいただきたいと思います。千葉市新基本計画審議会設置条例の第6条におきまして、会長は、必要に応じて部会を置くことができるとの規定があります。今回、千葉市で策定する人口ビジョン及び総合戦略につきましては、人口減少や少子超高齢化社会を課題とした新基本計画と、基本的には同じ方向性を持つものと考えています。3ページの運営要綱（案）第2条のとおり、4ページの別表にある所掌事務として「地方創生部会」を設置したいと考えております。なお、要綱案につきましては、部会の設置をもちまして直ちに施行させていただきたいと存じます。

【北村会長】

事務局から説明がありましたが、現在、私たちは千葉市新基本計画審議会の委員ということで集まっています。審議会の中で諮問がなされ、諮問に対応するために、審議会の中に地方創生について議論する「地方創生部会」を置く形となります。千葉市新基本計画審議会設置条例と運営要綱に基づくものです。ここまでで、ご意見・ご質問等はございますか。

【委員一同】

（異議なし）

【北村会長】

異議がなければ、条例に基づき、部会を設置させていただきます。

続きまして、「部会委員の選任」についてですが、運営要綱では、部会の委員は会長が指名することになっております。事務局から何か参考説明がありましたらお願いします。

【稲生総合政策部長】

部会委員の選任に関しては、本日お集まりいただいた「産官学金労言」及び市民の皆様から成る各委員さんをお願いさせていただきたいと思っております。従いまして、皆様全員を部会メンバーとして会長よりご指名させていただきたいと思っております。なお、運営要綱が定めるとおり、部会に部会長及び副部会長を置くこととされておりますので、併せてお願いしたいと存じます。

【北村会長】

部会委員の選任につきましては、会長の指名ということなので、ここに出席されている全ての委員の皆様をお願いしたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

次に部会長の選任ですが、運営要綱では委員の互選ということになっております。いかが取り計らいでしょうか。

【遠山委員】

北村会長をお願いしたいと思います、いかがでしょうか。

【委員一同】

(異議なし)

【北村会長】

それでは、私が「地方創生部会」の部会長を務めさせていただきます。引き続き、副部会長の選任ですが、会長の指名ということですので、副会長の坂戸委員をお願いしたいと思います。よろしくをお願いします。

(5) 千葉市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略骨子案について

【北村部会長】

それでは、議題の5「千葉市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略骨子案について」について、事務局より説明をお願いします。ここからは地方創生部会としての審議となります。

【稲生総合政策部長】

A3版の人口ビジョン、総合戦略骨子案（概要版）を中心に説明させていただきます。あわせてご覧いただく本編の資料につきましては、現時点で可能な範囲のみを書き込んでおり、今後、精度を上げていく予定です。本編1、2ページは目次となっています。Ⅰに人口ビジョン、Ⅱに総合戦略を記載し、一冊にまとめたいと考えています。

本編5ページに千葉市まち・ひと・しごと創生のイメージ図を記載しています。千葉市には基本構想、新基本計画、第2次実施計画から成る総合計画と、個別部門計画があり、計画行政を進めています。先ほども触れましたが、人口減少と少子超高齢社会をまちづくりの課題とし、新基本計画と第2次実施計画を進めております。そのため、総合戦略が新基本計画とまったく違うものにはならないと考えています。地方創生に向け、総合計画の施策の束ね直し、体系化を図るほか、新規に拡充する施策をどのように盛り込むかを検討していきたいと思っております。

A3版の人口ビジョンの骨子案（概要版）をご覧ください。【1 人口減少社会の到来】は「(1)

日本の現状」「(2) 千葉県の現状」「(3) 千葉市における現状認識」という項目で構成します。

「(1) 日本の現状」について説明します。地方創生において、東京一極集中の是正が目標の一つとなっています。千葉市は東京圏に入るものの、地方にひと、しごとを移すという微妙な立ち位置にありますので、千葉市の特徴を捉えるための出発点として「国の長期ビジョンに足りない視点（東京圏の地域の実情）」という項目を設けました。【2 千葉市の人口特性】の「(4) 東京圏における千葉・千葉市の特殊性」でも記載していますが、東京圏は“一都三県”ではなく“一都二県+千葉”という考え方を提示することが、全体を通しての姿勢となります。

戻りまして【1 人口減少社会の到来】の「(2) 千葉県の現状」については、現在、千葉県が人口ビジョン・総合戦略を策定しているところですので、県の状況を踏まえて加筆します。

「(3) 千葉市における現状認識」については、千葉市の総人口のピークを2020年と想定しています。2020年までは一定の社会増を維持していく見通しです。東日本大震災後はかなり落ち込みましたが、現在は年間約3500人の社会増となっています。また、国の人口ビジョンと合わせて、2060年までの展望を示していきます。

次に【2 千葉市の人口特性】の「(1) 千葉市と周辺都市の人口動態」について説明します。

「①総人口の推移」ですが、国立社会保障・人口問題研究所（社人研）の推計によると、千葉市の総人口のピークは2020年の97万9977人で、100万人に届かずに減少を迎えます。

「②人口減少指数」では、2010年の人口を100とした場合、2040年には95.4という数字になる見込みです。他都市との比較は、本編の10ページをご覧ください。政令指定都市と比較していますが、人口減少の傾斜が川崎市、さいたま市に次ぐ水準であることがわかります。11ページにおいては、図表4が東京都南葛4区、図表5が千葉県東葛4市との比較です。東京都南葛4区では江東区、江戸川区に次ぐ水準、千葉県東葛4市では柏市に次ぎ、船橋市を上回る水準となります。人口ビジョン骨子案（概要）に戻ります。他都市との比較では、一定規模の人口を維持すると考えられます。

「③合計特殊出生率の動向」ですが、千葉市全体では1.32、地区別では緑区が1.50となっています。本編13ページの図表6をご覧ください。東京圏の合計特殊出生率（TFR）を示していますが、東京から30キロ圏外において緑区の1.50を超える合計特殊出生率は、埼玉県の戸田市のみです。図表6から、東京から離れるほど合計特殊出生率が高くなるという法則は見られませんが、柏市、流山市、木更津市など、若者の流入が目立つ地域では、合計特殊出生率が高く、社会増加の重要性を考える必要があります。

「④人口の転出・転入先」については、本編14ページをご覧ください。千葉市は、市原市、茂原市など県内東部、南部からの転入が多いことがわかります。一方、転出では、習志野市、八千代市、東京都墨田区、市川市など、東京方面が多くなっています。千葉市への転入が多い上位5市（市原市、茂原市、東金市、八街市、山武市）を加えた人口減少指数は88.6となっており、千葉市（95.4）よりも、人口減少が早く進むと考えられます。15ページの図表8は、人口増加地域を示しています。東葛地区を除いた県内では、千葉市、木更津市のみが増加しており、東部や南部ではすでに人口減少が始まっています。千葉市が人口増加地域の波打ち際にある状況です。そのため、千葉市が人口の「ダム」となり、東京への流出を防ぐ必要があると考えています。

続きまして、「⑤人口の年齢別社会移動」については、本編16ページの図表9をご覧ください

い。20代前後に転入超過の山があり、20代後半に転出超過の谷があることがわかります。大学に入る際に転入し、大学を卒業するとともに、あるいは千葉市に住んでいる人が仕事を探す際に転出することが一つの要因だと考えています。いかに20代後半の転出を抑え、若者の定住を図るかが課題です。

「(2) 千葉市と経済的に一体性を有する圏域」では東京50キロ圏の分析を行いました。

「①通勤流動」については、本編17ページをご覧ください。図表10の千葉市からの通勤先については、市内の在勤者が57.4%を占め、東京都への通勤者は22.6%にとどまります。本編18ページの図表11は市外からの通勤流動を示しています。市外からの通勤者は、市原市、船橋市、四街道市、習志野市の順に約14万5千人おり、県内の通勤先として高い拠点性を有することがわかります。昼夜間人口については、本編19ページをご覧ください。千葉市の昼夜間人口比率は97.5%、中でも中央区は125.3%で、周辺都市から中央区へ通勤・通学する人が多く、拠点性を有していると考えられます。

「②通勤時間の状況」について説明します。千葉市全体の通勤時間は52.6分で、東京都心から同じ距離帯にある柏市、印西市、町田市と比較すると短時間であることがわかります。千葉市には職住近接という特徴があり、さらにその特徴を伸ばしていけると考えています。

「③買い物動向」は本編21ページをご覧ください。千葉県消費者動向調査の数字です。市内で買い物をする割合は83.7%、千葉商圏は約240万人で、県内の中心的な商圏を構成していることがわかります。一方、市川市や浦安市は東京方面に流出しています。船橋市、木更津市は一つの商圏を築いています。

「(3) 千葉市の産業特性と人口流動」については本編22ページをご覧ください。産業構造を従業者数と付加価値額で表にまとめました。図表15に産業別の従業者数を示しています。千葉市では卸売業・小売業、医療・福祉、その他のサービス業の従業者数が多く、第3次産業の比率が高いと言えます。23ページの特化係数をご覧くださいと、その他サービスと金融・保険業が全国と比べて高い一方、製造業が低いことがわかります。24ページの付加価値額の特化係数では、学術研究が突出していますが、これは本社機能、管理業務機能を含むもので、美浜区幕張における本社の集積が影響しているとみています。産業の部分はさらに分析を進めていきます。

「(4) 東京圏における千葉・千葉市の特殊性」では、分析を深めて千葉市の特殊性を見出し、東京圏は“一都三県”ではなく“一都二県+千葉”であることを示したいと思います。市内在勤者が多い、昼夜間人口比率が高い、交通利便性において他の二県と比べ東京とのつながりが弱い、半島であるため大都市の後背地として限定されているという特徴は、メリットでもありデメリットでもあります。これらの特殊性を踏まえ、周辺都市と協働し、独自の文化圏を形成するというストーリーを考えられると思います。

次の概要の右半分については、骨子案の段階で、さらに分析を深める必要があることをご理解いただきたいと思います。

【3 千葉市の人口の将来推計と分析】「(1) 基本的な認識」ですが、人口減少、高齢化は避けられない状況です。年間の純転入者数を4000人に設定しても、死亡者数の増加により、人口は減少します。現在の年間の純転入者数が3500人であることを考えると、人口減少は避けられないとみられ、減少のカーブを緩やかにする施策を考える必要があります。

「(2) 出生及び社会移動の将来人口に及ぼす影響」については、合計特殊出生率の回復は、短

期的には人口、年齢構成には効果がないと考えています。社会増加の拡大は、直ちに人口に効果を与えるものの、年齢構成には大きな影響はないという基本的な考え方を取りたいと思います。

「参考推計の比較（その1：総人口）」のグラフですが、第2次実施計画を策定する際、平成26年3月に千葉市で実施した人口推計を、「平成26年3月推計」のグラフで示しています。「出生率回復」のグラフは、合計特殊出生率の回復を国の想定並（2040年に人口置換水準2.07を達成する）に設定し、社会移動はゼロと仮定しています。「社会増拡大」のグラフは、急速な社会増を想定し、出生率を平成25年推計と同一にしたものです。いずれも、楽観的な設定ですが、人口減少が避けられないことがわかります。「参考推計の比較（その2：年少人口比率）」についても同様の条件設定です。出生率が回復する場合は、長期的にはある程度の影響を及ぼしますが、減少傾向に変わりはないと思います。

本編30ページをご覧ください。「(3) シナリオ別シミュレーション」では、合計特殊出生率は5通り、社会移動率は3通りのケースを設定し、本編32ページにグラフ化しました。全てのケースにおいて、2020年をピークに人口が減少します。現在は合計特殊出生率と社会移動率を分けて分析していますが、今後は、これらを組み合わせて行う予定です。その際、結婚・出産、転入・転出の希望に関するアンケートを実施し、合計特殊出生率、社会移動をどのようなシナリオにするか考えた上でシミュレーションを行います。

「(4) 行政区別分析」では6区で人口の状況に違いがありますので、分析を進めていきたいと思えます。

【4 人口減少が千葉市の将来に与える影響】では、「(1) 労働力人口・就業人口・従業者数」「(2) 高齢者単身世帯の推計・空き家」「(3) 市内総生産の見通し」「(4) 千葉市の財政に与える影響」について分析を進めたいと思えます。

【5 千葉市が目指すべき人口の将来展望】について説明します。子育て支援、男女共同参画、ワーク・ライフ・バランスの推進など、自然増に向けた施策を確実に進めていきますが、千葉市単独の施策で出生率に大きな影響を与えることは難しいため、社会増に果敢に挑戦していく必要があると考えています。「東京への流出を防ぐため、県内における人口の『ダム』機能を発揮する」「東京都内に向けては居住地としての魅力を強く訴求する」「若い世代に魅力的な職場を提供し、住民、働き手として定着させる」といった取り組みが必要です。また、産業、経済、地域社会の分野で、交流人口の増加を目標に取り組むことも重要です。千葉市が持つ高い拠点性と、2020年開催の東京オリンピック・パラリンピックで幕張メッセが会場になることなどを活かし、市内と圏域に雇用と活力を生み出したいと思えます。シナリオを描くことに加え、数値目標を入れ、具体化していく考えです。

最後に、千葉市の基本目標として、まだイメージの段階ですが「人口減少・少子超高齢社会に対応し、社会増と交流増に挑戦する～選ばれる都市 千葉へ～」を人口ビジョンに描きたいと考えています。

続きまして、「総合戦略」骨子案（概要）について説明させていただきます。総合戦略は人口ビジョンの分析を踏まえて提示すべきですが、まだ人口ビジョンの分析が足りていない状況ですので、総合戦略については骨格について意見を頂戴できればと思えます。

基本目標「人口減少・少子超高齢社会に対応し、社会増と交流増に挑戦する～選ばれる都市 千葉へ～」に基づき、【1 総合戦略を貫く「都市経営の3方針」】と【2 基本目標を実現する「7

つの重点戦略】という構成で、施策メニューを体系化し、盛り込もうと考えています。

【1 総合戦略を貫く「都市経営の3方針】は「Ⅰ 産業と地域の活性化を推し進め、魅力あふれる都市へ」「Ⅱ 人口減少・少子超高齢社会を見据えた、成熟都市へ」「Ⅲ 圏域を支え、活力の中心となる、輝ける都市へ」で、国の基本目標とほぼ同じですが、地方への新しい人の流れという部分は盛り込んでいません。

【2 基本目標を実現する「7つの重点戦略】では、「1 『一都二県+千葉』で、千葉市が果たす役割の追求」をベースに位置づけ、「2 都市の活力を支える産業の振興と人材の育成」「3 出産・子育ての希望をかなえ、若い魅力にあふれたまちづくり」「4 超高齢社会を支えるまちづくり」「5 都市資源を活用し、ひととひとがつながるまちづくり」「6 千葉市を知り、そして好きになる仕組みづくり」「7 未来へと引き継がれる『オリンピック・パラリンピック・レガシー』の創出」で構成します。この7項目を基に、施策メニューを体系化しようと考えています。

施策メニューを整理する上で、KPI（重要業績指標）を定め、PDCAサイクルを確立することが求められていますので、総合戦略に盛り込みたいと思います。「千葉市新基本計画」でも千葉市独自の政策評価を展開していますので、関連性を整理したいと思います。

総合戦略の具体的な内容は、素案、原案を提示する際に審議していただきたいと思います。本日のところは、基本的な方向性や骨格についてご意見をいただければと思います。

【北村部会長】

ただいま、事務局から「千葉市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略（骨子案）」の概要について説明がありましたが、ご質問、疑問点等ございますか。

【辻委員】

総合戦略の重点戦略6の3番目に「時間を返す」市民サービスの実現とありますが、具体的にはどうのことですか。

【稲生総合政策部長】

例えば、社会保障・税番号制度導入に伴うサービスや、コンビニで証明書が取れるサービスなど、市民が市の窓口に来る機会を減らし、時間をかけなくても行政サービスが受けられる仕組みを作ろうと考えています。

【辻委員】

身近なところで行政サービスを受けられるような窓口を作るということですか。

【稲生総合政策部長】

はい。あるいは同じ区役所でも、総合窓口というものを作ろうとしています。ワンストップで手続等ができるというようなことも「時間を返す」という所に含めて考えています。

【北村部会長】

他にはいかがでしょうか。かなりの分量になりますので、何度も読み返さないとよく理解できない面があるかもしれません。

委員の皆様には骨子案を事前にお読みいただいていると思いますので、自分なりのご意見をお一人ずついただきたいと思います。まず副部会長、坂戸委員の方からお願いできますか。

【坂戸副会長】

まず、ちょっと疑問というか、分からない所がありました。こういうものを考えていく場合に、重点戦略6を見てみると、「様々な魅力を有する本市固有の都市イメージ」とありますが、「様々」って何なの？という部分。やっぱり「様々」ではなく、こんな魅力があるということ具体的に提示し、それに基づいて考えていく必要があるんじゃないかという気がいたしました。

「都市経営の3方針」の2番で「人口減少・少子超高齢化社会を見据えた、成熟都市へ」と書かれています。非常にきれいに書いてありますが、確かに千葉市は海も森もありますし、こういうものをうまく使えば、老人、高齢者にとって住みやすい、定住してもらえるまちづくりができるような感じがいたします。

一方で、交流人口として若者を集めてこない、やっぱりまちとして活性化しないだろうと。若者と老人がうまくコミュニケーションのとれるまちづくり、こういうものをどのようにして作れるのかを、この会議等を通して検討していったら良いのではないかと思います。

【北村部会長】

ありがとうございました。老人と若者がコミュニケーションできるという体制を具体的に作る事が大切だというようなご意見だったと思います。続きまして、村館委員。

【村館委員】

千葉市は市長をはじめとしてICTに非常に力を入れていると都市だと認識しています。ICTに関わる重点戦略というのが、重点戦略6に一部記載されているのみでして、もっとICTという視点が全面に出ても良いのではないかと感じました。

私は、産業連関分析や経済のデータ分析を専門にしており、千葉市の産業連関表を可視化する、「みえる化」という研究をしたことがあります。千葉市の産業構造は、本社部門や鉄鋼部門、金融・保険業が取引の中心にあるという特徴があり、本日の産業構造の説明は、産業連関表の観点からも近いものがあると感じました。

【北村部会長】

ただいまのご発言、ICTの視点をもっと前面に出すべきだということ。それから産業構造ですね。かなりいびつな産業構造だというのが、私の印象としてはあるんですけども、そういったものが、実態をみてもそうなんだということのご発言だと思います。続きまして、遠山委員。

【遠山委員】

私は金融機関の立場ということで、各市町村の取り組みを見ています。

人口ビジョンの方では、あくまでも感想ではありますが、日本創生会議の「増田レポート」は女性の数に注目したのですが、人口ビジョンの骨子案では、特段男女別の分析があまり触れられていなくて。触れなくても、出生率の分析をしっかりすれば良いということであれば問題ないのですが、事の始まりが、若い女性が20年後に相当数減り、子どもが減少するという所からスタートした話だと思ったので、女性の数に触れないのには何か理由があるのかなと感じました。

総合戦略については、子育て支援や高齢者福祉などが入っているし、一方で企業誘致等も入っ

ており、非常にバランスが取れていると思います。他の都市にはある農業とかが、入っていないくらいで、バランスがあると思っています。

私自身一番好きな所は重点戦略1の『競争』から『共創』の地域連携へ』という一文で。今回金融機関の方で得ている情報というか、金融庁等からの話にもあるのですが、いわゆる地域連携、広域連携を、今回の地方創生では検討してもらいたいという意向も強くなっています。市町村が単独でできる地方創生は限定的ですし、金融機関が単独でお手伝いできることも限定的だと思います。やっぱり色々ところで連携してやっつかないと、地方創生は難しい課題だという話が非常によく聞かれるので、是非千葉市が先頭に立って地域連携を推し進めていただきたいという風に感じました。

【北村部会長】

人口ビジョンに関しては、男女別が特に触れられていないが、ということですね。ただ重点戦略の方ではダイバーシティが書かれているということからも、中では検討して数値は持たれているのだと思います。それから総合戦略に関しては地域連携というものに非常に期待しているというご発言だったと思います。続きまして、下村委員。

【下村委員】

まず人口ビジョンについて、私も金融機関の立場で参加していますが、50年来の千葉市民でもありますので、市民として感じたところですが。色々な統計の中で、千葉市の中で緑区の合計特殊出生率が一番高いというのは意外でした。都市と地方という日本全体で起きていることが、同時に千葉県の中、また千葉市の中でも縮図として起きているのかなと感じました。当然政令指定都市ですから6個の区があるわけですが、千葉市の中でも、高齢化が進んでいる地区、人口が減らない地区など分かれると思います。勿論そういった統計もあると思いますが、千葉市エリアをもう少し落とし込んだ中での地域分析で。また、先程副部会長がお話しされたとおり「様々な魅力」という所がありますが、それぞれの地区にも素晴らしい施設なり、自然なりが当然あるはずなので、それぞれの特色を活かした中での、総合的な魅力有する千葉市ということ、エリア的にもう少し考えていった方が良いのではないかと感じています。

魅力ある千葉市というのをアピールして、人口の流入、産業の誘致ということを考えていかなければならないという風に思います。今後そういった統計データ、地区別のデータという一面も加えながら、参考資料として示していただければ、より良い会議になるかなと思います。

【北村部会長】

千葉市の場合には区によって、かなり増加率、減少率が違ってきている。緑区はおそらく高い、だから合計特殊出生率も高いのだと思いますけれど、そういったところをもう少し細かく押さえた方が良いのではないかと。そうした中でエリア的な魅力といったものをアピールしていった方が、説得力が増すのではないかとというご発言でした。続きまして、大庭委員。

【大庭委員】

私も下村委員と同じで、子どもの頃からずっと千葉市中央区に住んでいまして、昔と比べて随分様子が変わったというのが正直な感想でした。下村委員のお話を私なりにもう一步進めてみますと、実はせっかく千葉市には広大なエリアと色々な産業がありますので、それぞれの特徴がある区とか、エリアづくりをしても良いのかなと考えております。我々が住んでいるような所ですと、文教とか低層住宅とか。湾岸部では工業、あるいは緑区では農業、中央区の海側の方では海を活かした観光など、使い分けができると思っておりますが、しかし残念ながら私権の制限というのは中々出来ないということですので。商業地域であるべきところにマンションが建ってしまうとか、その反面本当に必要な開発が滞っていたりしています。住みやすいまちというのはソフト面という部分もありますが、もし私が他の県から転入してきたとした時に、街並みが整然とし、しっかりとした都市計画に基づいて、非常に住まいやすいまちづくりをしている都市に魅力を感じるのではないのかなという風に思っています。

こういうことを言うと結論めいたことになってしまいますが、市としてどこまでやるのかと。例えば雇用を均等にする、医療環境を整備する、行政サービスをスムーズにするといった取り組みは、どこの自治体でもやっていることだと思います。もう一つ広大でありなおかつ、お話があったように東京に依存しているという訳ではない、独自の生活圏もあり、産業も立地しているところを活かせば、もう少ししっかりとした開発計画とか都市計画に基づいた形で、ここに住んでいて良かったと言えるようなものを、少しでも抗って近づけていって、全国からも羨ましがられるような職住環境が出来てくれば、より良いのではないかなと思っています。

【北村部会長】

以前とはかなり様子が変わってきたということ。それから色々な区に特徴を持たせた方が良いのではないかということ。基本になるのはやはり住みやすいまち、住んでいて良かったと思えるまちを作る必要があるので、そのためには市としてどこまでやるのかという思い切り。市の覚悟に期待したいというお話だったというように伺いました。続きまして、栗飯原委員。

【栗飯原委員】

社会増への取り組みについて、大学生の立場から考えました。若い世代が進学を機に千葉市に転入し、就職を機に転出することが人口増減の大きな要因だと思いますので、県内の大学生を千葉市内の企業とマッチングする機会を作るなど、学生の囲い込みに力を入れる必要があると思います。今後は都市間で学生を取り合うことになるので、就職活動から、婚活、子育てに至るまでの一体的な学生の取り込み施策が必要だと感じました。

【北村部会長】

18歳の人口が増えて、22~3歳になると今度は大幅に減るということ。これは大学が千葉市には多いので、せっかく人が増えるのに、卒業するとどこかに行ってしまう非常にもったいないことが起きている。どういう風にしてそういう学生を囲い込んだら良いのかと。それを就活、あるいは婚活ということに結びつけてやったらいかかかという発言でした。続きまして、村尾委員。

【村尾委員】

確認ですが、この最終成果物は企業でいう中期、長期計画のように、庁内に知らしめて仕事を進めていく、そして市民にもホームページなどで見ていただいて理解してもらおう。そういった類のもので良いのでしょうか。

【稲生総合政策部長】

そのような形でまとめていきますが、本日お示しした段階はその骨子ということです。

【村尾委員】

先程若者の取り込みという話がありましたが、外国人の取り込みという話をしてみたいと思います。欧米の大都市では、移民の定住者がたくさん入っていて、人口減少の対策として、外国人労働者を多く受け入れています。勿論それに伴う問題もたくさんあるのですが、日本では「移民」という言葉を使うとどうしてもアレルギーがあるかもしれません。しかし全体の流れからすれば、移民や外国人定住者がワーカーとなって、介護、看護など人材が不足すると思われるエリア、資格や専門性が必要なエリアに、千葉市が先頭を切り、戦略的に外国人労働者の受け入れをしていくということがあっても良いのかなと思いました。

例えばフィリピンには家事代行サービスの国家資格のようなものがあり、多くのフィリピン人がシンガポールや台湾の家庭に入って家事をし、有能な女性が仕事に出られるようにしていると聞きました。重点戦略の2、4、7においては、日本人だけで解決というのではなく、外国人をどう使うかという意味合いでの広がりがもう少しあっても良いのではと感じました。

【北村部会長】

ワーカーとしての外国人を良い形で取り込むこと。戦略的なことをしっかり考えて取り組めばいい結果が得られるのではないかというご発言でした。続きまして、辻委員。

【辻委員】

人口ビジョンについては、遠山委員が指摘したように男女別の分析を深めるべきだと感じました。新たな分析を行う際には、男女という視点を加えていただきたいです。

総合戦略については、福祉施策のバランスが非常に大きいという印象を受けました。もう少し積極的な戦略が組めないのかと感じます。要は優良な納税者を作り上げないと、花火を上げたけれどもそれが持続できないというような、一過性の施策になりかねないので、人材をきちんと育成するというのも力を入れる必要があると思います。

【北村部会長】

やはり遠山委員と同じように男女別の分析を掘り下げるべきということ。それからもう少し積極的な納税者育成ということを図っていくべきだというご発言でした。続きまして、吉開委員。

【吉開委員】

非常によくリサーチされた資料で、どういった方向で意見を言うべきか非常に悩みました。大庭委員や辻委員の意見に近いのですが、どこに重点を置くかが重要だと思います。総合戦略の骨子案に記載されていることは全体的確だと思いますが、これから市の方に期待したいのは、折角

これだけの基礎資料をまとめていただいているので、どこに重点配分するのか。納税者育成というお話もありましたが、どこが大事だから、どこに重点を置き、限られた資源を投入すべきかという議論を積み重ねていって、施策が出来ていく過程を拝見したい。そこで何か意見を言うことが出来れば、非常に意義のある仕事になるなどと思っています。

ただ、出産、子育てが重要と考えても、30年ぐらいのスパンで見ると、ある時点からは高齢者の施策にもお金を重点投資しなくてはならなくなる。時間軸を考慮して3次元で物事を見ていく必要があるので、難しい議論だと思います。是非こういった施策をとるにあたっては、こういった分析があるんだということを見せていただけると大変参考になるなどと思います。

【北村部会長】

重点配分が必要だということ。どこに資源を配分していくのか、その時に時間軸も加わってくるので非常に難しい話になるけれどということだと思います。続きまして、矢田委員。

【矢田委員】

私は労働局に勤めておりまして、日頃から雇用対策、ハローワークを通じた就職支援などを担当しているところです。

人口ビジョンをお聞きしまして、人口が減少する中で、どのように産業を支える労働力を確保するかが課題となっています。先ほど、外国人を活用するとの意見がありましたが、それ以外にも、若者や女性、高齢者、障害者の全員参加が必要になると考えています。勿論全員参加が可能になるためには色々配慮を必要とする方々も多いと思います。

働き方の見直しが必要になります。長時間労働で働ける方ばかりではありませんので、ワーク・ライフ・バランスや、賃金だけではない働きやすさとか、キャリアアップの仕組みなど、働きやすい職場環境を整備する必要があります。重点戦略「2 都市の活力を支える産業の振興と人材の育成」に、働きやすさ改革といったものが盛り込まれると、バランスが取れて良いと思えました。

また、千葉県内や千葉市内の事業所を訪問させていただいているのですが、従業員が定着しないという課題を抱えている事業主が非常に多いです。女性の労働力率を見ると、都市部はどれもM字型カーブがはっきり出ていて、子育てをしながら働く女性が少なく、働いていたとしてもパートタイムが多く、なかなか正社員になれないのか、あるいは本人が希望していないのか、という課題があります。

障害者の雇用に関しても、実は千葉県の障害者雇用率は全国的に見て低い所です。千葉県の事業所は千葉市に集中していますので、障害者の雇用が確保されていないというような課題が多々あります。

全体的にこうした若者、女性、高齢者、障害者が働きやすい職場づくりに関する施策が必要だと感じておりまして、是非千葉市の総合戦略に入れていただきたいと感じました。

【北村部会長】

労働力の確保ということを視点にして、全員参加が重要だということ。そこでは働きやすさということをしつかりと整備していかなければならない。ワーク・ライフ・バランスとはよく言わ

れているけれど、今のご発言から伺いますと、なかなかうまく行っていないということだと思えます。そういう所を充実させていくべきだろうということだと思えます。続きまして、田村委員。

【田村委員】

私は中央区に転入したばかりではありますが、考えていることは皆様と一緒にです。その中で、何で私が千葉市に来たかといいますと、市長のお話をどこかで聞きました。その時に「こんなに市のことを思う人がいるのか」と感激しました。それがきっかけで千葉市に転入してきました。5人家族で娘もまもなく千葉市にやってきます。

私の場合はそんな些細なことでしたけれども、何か魅力があれば人口は増えるんじゃないかと思えます。

【北村部会長】

引っ越そうと思ったのはやはり「魅力」。「魅力」があれば人口は増えるんだと、そういうご発言だったと思えます。

【北村部会長】

私からも発言させていただきます。大元は創生法に依拠するという形での総合戦略の作成となっています。そういうことを考えると、かなり思い切った形にしていかないと、千葉市は東京圏の一都市ということで埋もれてしまうという危惧を持っています。

私もずっと千葉大にいましたので、文科省、財務省に予算を確保するという時に必要なのは、いかに特色を出すかが重要なのですが、千葉大学というのは特色を出しにくい大学。非常に悔しい思いを何回もしました。是非そういう思いをしないで、お金を取ってこられるようなビジョンを作っていたきたいと思います。

その中で、私が一つこれはそうかなと思ったのが、「一都二県+千葉」という千葉県東部、南部の受け皿として千葉市があるということ。この考え方は、やはりキャッチフレーズになるのではないかという気がします。

遠山委員もおっしゃっていましたが、『競争』から『共創』の地域連携がやはり重要だと思います。「一都二県+千葉」と言いながら、地域連携ということがまだ具体的なことが書かれていない。どのように地域連携を表現していくかということが重要で、そのためには周辺地域の協力というものが絶対に必要で、それだけ地域から信頼を得られる千葉市になっていかなければならないと考えています。

産業という観点で言いますと、千葉市の産業は非常に弱いと言えます。グラフを見ても分かる通りです。地域内の産業の育成だけでは発展が望めない。地域外産業、中だけで商売するのではなく市外をターゲットにして商売をしていくことが必要だと感じました。高齢社会を支えるヘルスケア産業についても、単なるサービス産業ではなく、IT等を活用させて地域外産業として発展させ、全国に成果を発信できるような産業に育成していかなければなりません。そういうことを図っていないと、だんだんシュリンクしてしまう。

どこかで頑張らないといけない。特色を出さなければいけないということで、良い戦略を作っていたらというように思えます。

(6) その他

【北村部会長】

次に、「その他」についてですが、事務局から何かございますか。

【藤代政策企画課長】

今後の会議のスケジュールについて説明させていただきます。ただ今、お手元に資料を配布させていただきます。併せて、諮問書の写しもお配りさせていただきます。今後の会議は記載のとおり進めさせていただきます。次の会議まで時間がありますが、この間、本日提示した骨子案や進捗状況についてご質問等ございましたら、事務局にお申し付けください。その時点での状況をご説明させていただきます。

【北村部会長】

審議する内容は、千葉市にとって非常に重い課題だと思います。しっかりと審議したいと考えていますので、できるだけ多くの委員の出席可能な日時で調整をお願いします。ただ、皆様ご多忙かと存じますので、出席が難しい場合は、事前に意見を事務局に提出するなどしていただくと助かります。その他ございますか。

【藤代政策企画課長】

この後、事務局で早々に議事録を作成し、委員の皆様が発言内容について確認させていただきます。その後、部会長、副部会長の確認を経て、事務局で確定の手続きを取らせていただきますので、よろしくお願いたします。

【大庭委員】

議事録の確認は郵送していただけるのですか。それともインターネットなどで検索して確認するのでしょうか。

【藤代政策企画課長】

可能であればメールでお送りさせていただき、できるだけ時間を取らない方法で連絡させていただきます。

【北村部会長】

ただいま事務局より、議事録の確定方法について提案がありましたが、よろしいでしょうか。
(異議なし)

5 閉会

【北村部会長】

その他何かございますか。

無いようでございますので、以上をもちまして本日の会議を終了させていただきます。
長時間にわたり、ありがとうございました。

以上